

(第1面)

産業廃棄物処理計画書

令和1年7月1日

都道府県知事
大分県知事 広瀬勝貞 殿



提出者

住 所 大分県宇佐市大字山本2231-1

氏 名 三和酒類株式会社

代表取締役 下田雅彦

電話番号 0978-32-1431



廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	三和酒類株式会社 日田蒸留所
事業場の所在地	大分県日田市大字西有田810-1
計画期間	平成30年4月1日から平成31年3月1日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
① 事業の種類	酒類製造業
② 事業の規模	全社の売上高445億円4千8百万円 (2018年7月実績)
③ 従業員数	24名 ※全社362名 (2018年11月1日)
④ 産業廃棄物の一連の処理の工程	別紙、廃棄物など発生と処理工程の通り

(第2面)

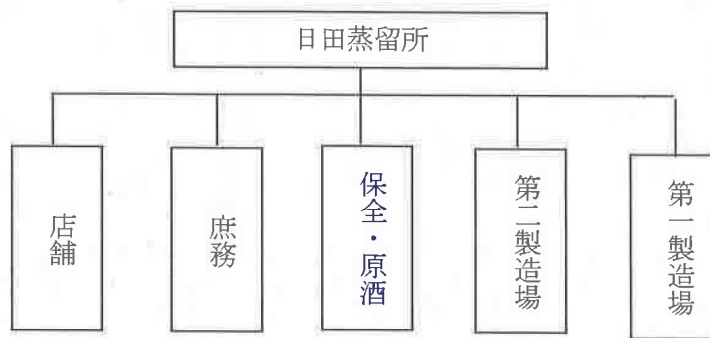
産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)

統括管理者 : 日田蒸留所 所長 若林武
廃棄物担当者 : 日田蒸留所 課長 藤田善也 (焼酎粕は、本社環境下にて管理)

(役割)

統括責任者 :
管理担当者 :
・ 廃棄物処理に関する事項の策定、決定、承認
・ 廃棄物処理計画の作成および管理状況の把握と改善策の検討
・ 収集運搬業者、処理業者の選定、調査、管理および契約締結
・ 電子マニフェストの発行、管理
・ 監督官庁への各種報告
・ 社員等に対する教育、指導、諸業務



産業廃棄物の排出の抑制に関する事項 (別紙のとおり)

①現状	【前年度 (年度) 実績】		
	産業廃棄物の種類		
	排 出 量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	排 出 量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		

産業廃棄物の分別に関する事項 (別紙のとおり)

①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組)
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項 (別紙のとおり)			
①現状	【前年度 (年度) 実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
①現状	【前年度 (年度) 実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	t	t
(これまでに実施した取組)			
実施なし			
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	t	t
(今後実施する予定の取組)			

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項			
①現状	【前年度（ 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	t	t
	（これまでに実施した取組）		
実施なし			
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	t	t
	（今後実施する予定の取組）		
産業廃棄物の処理の委託に関する事項			
① 現状	【前年度（ 30 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	廃酸(焼酎粕)	
	全処理委託量	4429 t	t
	優良認定処理業者への処理委託量	1000 t	t
	再生利用業者への処理委託量	3429 t	t
	認定熱回収業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t	t
	（これまでに実施した取組） 《焼酎粕》 ・焼酎粕原液は、日田市バイオマス資源化センターでのバイオマス原料およびセブンフーズ（株）での養豚飼料利用で再生利用しながら、自社拝田グリーンバイオ事業所での加工に取り組んだ		

②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	廃酸(焼酎粕)	
	全処理委託量	5100 t	t
	優良認定処理業者への 処理委託量	1000 t	t
	再生利用業者への 処理委託量	4100 t	t
	認定熱回収業者への 処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		
《焼酎粕》 自社押田グリーンバイオ事業所での加工を主に産廃処理(バイオマス原料化および養豚飼料化)での委託を行う			
※事務処理欄			

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。